

金勝アルプス(近江湖南アルプス)

(写真 1)



金勝アルプスのマップ

※山行日 ----- 2020年11月24日(火)

※メンバー ----- 弥生班 6名

※行程

(往路----車移動)

(復路----車移動)

- ・岩出図書館 出発 5:30 || ・上桐生駐車場 出発 15:50
- ・上桐生駐車場 着 7:40 || ・岩出図書館 到着 18:00

(山行-----主な見どころ、チェックポイント)

- ・上桐生駐車場出発 7:50
- ・落ヶ滝 8:20
- ・鶏冠山 9:40
- ・天狗岩 11:00
- 途中昼食 12:15~12:45
- ・竜王山 13:00
- ・逆さ観音 15:10
- ・オランダ堰堤 15:30
- ・上桐生駐車場着 15:45

※紅葉も終わりかけの11月、凜とした寒さを感じる時期、前回(三上山)に続き、滋賀県に足を運びました。今回は、近江湖南アルプスの金勝(こんぜ)アルプスを満喫しました。

※「金勝アルプス」

・金勝アルプスは、林野庁が管理している「近江湖南アルプス自然休養林」に位置し、仏教文化の一翼を担っていた金勝寺や、狛坂磨崖仏(こまさかまがいぶつ)をはじめとした自然の岩壁に造立された仏像などがあり、1000年以上も前から都の造営のために森林が伐採され、さらに燃料採取のために過度に利用されたため、江戸時代には全国的に知られる禿げ山となった。その後、明治以降の治山工事により森林が再生されました。

・現在はよく整備され、「鶏冠山(491m)」と「竜王山(605m)」と低山であるが、巨岩、奇岩が沢山露出し変化に富んだ人気のある登山・ハイキングコースです。 (写真1)

・登山ルートも「0-落ヶ滝線」「K-北峰縦走線」「C-茶仏線」「T-天狗岩線」「S-水晶谷線」「KS-狛坂線」「KT-桐生辻線」と沢山あり、それぞれのルートにコールポイントとしてアルファベット記号と番号付けがされており、これを頼りに目的地を目指します。 (写真2)

・今回の出発は高速道路の渋滞を避けるため、5時30分と早く出発し、山行開始は7時50分。予定は、「落ヶ谷線」「北峰縦走線」「天狗岩線」「水晶谷線」の周回コース。まだ眠い中、マップを片手にいざ出発。 (写真3・4)

(写真 2)



コールポイント(落ヶ滝線)

(写真 3)



マップを見ながら出発

(写真 4)



朝早くまだ薄暗い樹林帯を進む

(写真 5)



前方が開け小川を進んでいく

(写真 7)



小鳥の囀りが聞こえ坂道へ

(写真 8)



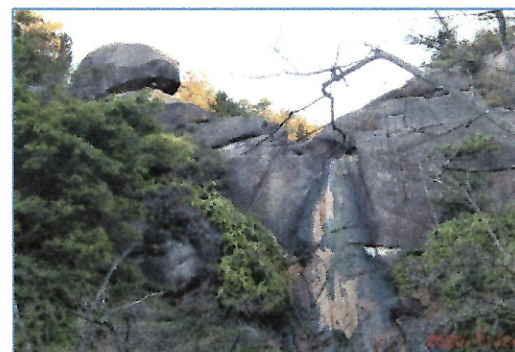
シダの群生を進む

(写真 9)



最初の目的地「落ヶ滝」

(写真 10)



滝の横にくじら…?

(写真 6)



平坦であるが石や岩の上を

・「落ヶ滝線」に差し掛かり、最初は水量の少ない小川をぬかるみを避けながら、石や岩の上を快適に進んでいきます。
(写真 5・6)

・少し坂道に差し掛かると、色々な小鳥の囀りが聞こえ、シダの群生があり、密林のジャングルの雰囲気となりました。
(写真 7・8)

(余談)

・メンバーから「シダって食べられるのかなあ〜」との声に、シダン(知らん)とジョークが飛ぶ。

・楽しい会話とともに、微かに滝の音が聞こえてきます。10分程進むと大きな岩が立ちはだかり、最初のチェックポイントの「落ヶ滝」に到着。水量は少ないが高さがあり、爽快感があります。

(写真 9)

(余談)

・誰かが、「滝の上の左側にクジラがあるぞ〜」との一声。よく見ると巨岩が乗っており、口を開け目も開いているように見えた奇岩に、皆が「ほんとやなあ〜」と納得。

(写真 10)

・ここはまずインスタ映えになるとのことで、はいチーズ。

(写真 11)

(写真 11)



まずは「落ヶ滝」で最初の記念撮影

(写真 12)



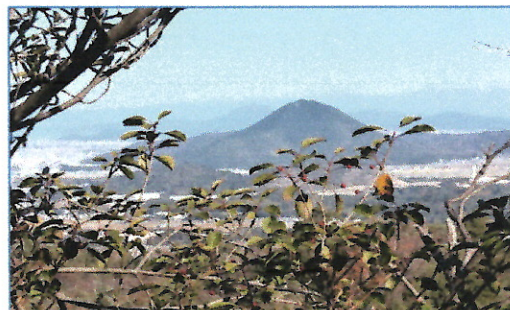
滑りやすい花崗岩を進む

(写真 13)



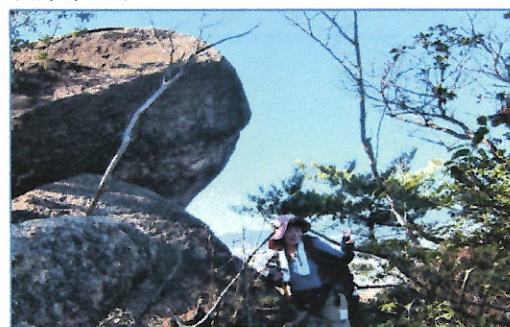
急なところはロープをよじ登る

(写真 15)

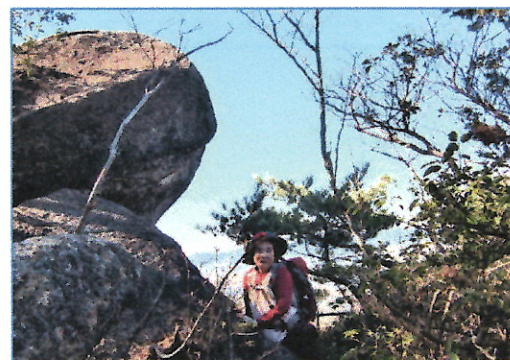


「鶏冠山頂」から「三上山」が見える

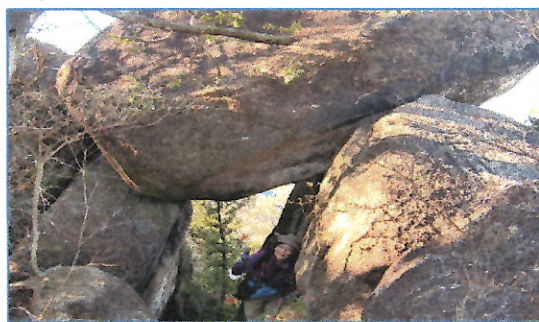
(写真 16)



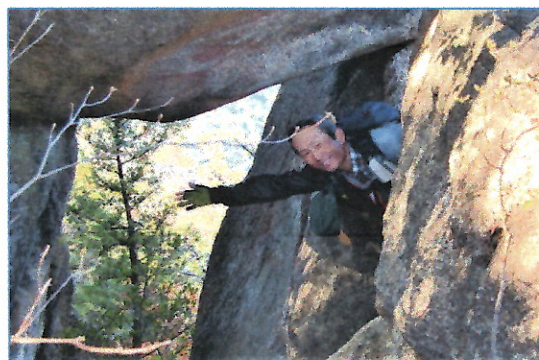
(写真 18)



(写真 17)



(写真 19)



- ・「落ヶ滝」の滝壺から滝上を目指し進むと、滑りやすい花崗岩の連続。ステッキを両手に怖々と進んでいきます。

(写真 12)

- ・滑り転びながらも進むと急な壁が立ちはだかる。ここはロープでよじ登り、熱い汗をかく。冷や汗のメンバーもあったのでは……

(写真 13)

(写真 14)



「鶏冠山」山頂で

- ・30分程進むと北峰縦走線出合いに出て、「鶏冠山」を目指す。幾つもの尾根をジグザクに登りやっと頂上へ。

(写真 14)

(余談)

- ・メンバーから「ここは雄鶏の山ということか。どこが鶏冠なのかなあ〜。ジグザクに登るところが鶏冠か?」の声に、他のメンバーから「それやったらゴジラの背中や」と又もジョークが飛ぶ。

- ・「鶏冠山」山頂からは、前回登った「三上山」が見えます。

(写真 15)

- ・お菓子と水分のエネルギー補給後、次は「天狗岩」を目指し出発。途中、色々な巨石、奇岩があり立ち寄る。

(写真 16・17・18・19)

(写真 20)



巨岩の上から

(写真 21)



さらに上へ上へ

(写真 22)



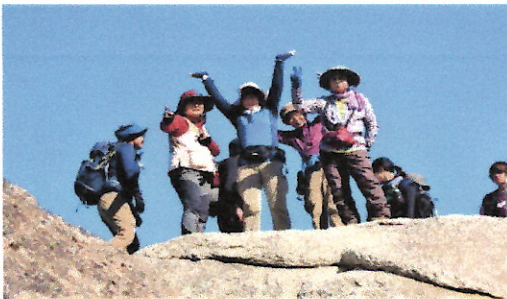
弥生班の年長者も頑張ってます

(写真 23)



本日のリーダー、張り切っています。

(写真 24)



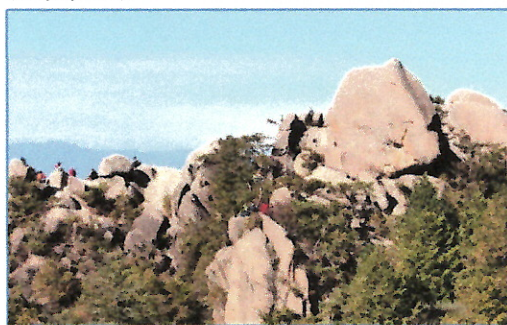
やっと天狗岩の頂上へ、バンザイ

(写真 26)

(写真 25)

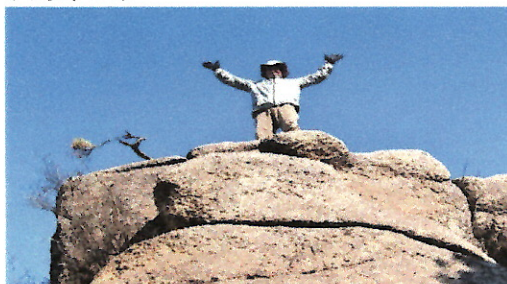


「天狗岩」の上から笑顔もこぼる



「天狗岩」の全景

(写真 27)



耳岩の上から

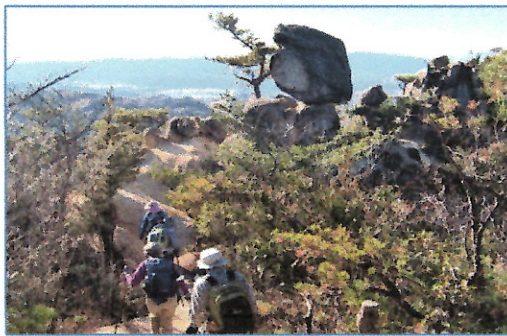
- ・途中の大きな岩に登ると天狗岩が見え思わず指をさす。
(写真 20)
- ・目的地が見えたので急ぎ足になるが、急坂があり体力を消耗しつつ、一步一步、足を進ませる。
(写真 21)
- ・「天狗岩」の下につき、ザックを置いてロープをよじ登り、てっぺんを目指し奮闘する。
(写真 22・23)
- ・やっとの思いで天狗岩を制覇。晴天で気持ちよくバンザイ。しかし、記念写真を撮るも、後ろが絶壁とあって笑顔も幾分かこわばっている感じがします。
(写真 24・25)
- ・次のチェックポイント「竜王山」を目指し出発。振り返ると「天狗岩」の全景が見え、「あんなところによく登れたなあ〜」と誰かが呟く。
(写真 26)
- ・途中の「耳岩」にも立ち寄る。
(写真 27)

(写真 28)



「竜王山」山頂で、はいピース

(写真 29)



天狗岩線を選択。浮き岩が…

(写真 31)



「水晶谷線」水晶粒で光っている？

(写真 32)



「逆さ観音」

(写真 33)



「オランダ堰堤」前で
本日最後の記念写真

- ・白石峰を通過するころ 12 時を過ぎており昼食をとる。
(腹ペコで夢中で弁当を食べたので、写真はありません)
- ・途中、茶沸観音があり祈願、15 分程で「竜王山」頂上へ。
頂上は狭く、直ぐに出発。 (写真 28)

- ・下山ルートをややかな南谷林道にするか、険しい天狗岩線にするか迷い、管理事務所に電話で確認。
南谷林道は荒れているとのことで、仕方なく険しい天狗岩線を選択する。

(写真 30)



ロープでの下山に疲労困憊

- ・険しいルートだけあって、浮き岩等の奇岩が沢山あり
長いロープを使って下山することに。 (写真 29・30)

- ・途中の分岐で、水晶谷線ルートを選択。
水晶谷の名の通り、水晶の粒があり地面は光っていた。
(写真 31)

- ・途中には「逆さ観音」があり、岩に刻まれていた。
(写真 32)

- ・本日最後のチェックポイントである「オランダ堰堤」に着き、笑顔で完歩を祝う。
(写真 33)

(参考) 「逆さ観音」

- ・逆さ観音は、中央に阿弥陀如来、左右に観音菩薩と勢至菩薩の三尊石仏で鎌倉時代に作られ、金勝寺への「道標」になっていた。下流の「オランダ堰堤」築造時、石材不足で一部が使われたことによりずり落ちて逆さになったと、標識に記されていました。

(参考) 「オランダ堰堤」

- ・森林伐採で大洪水が度々発生したため、治山治水工事に着手。オランダの技術者「ヨハネス・デ・レーケ」の指導の下、明治 22 年完成。その歴史的土木施設としての高い価値に照らして平成 16 年度土木学会選奨土木遺産として選定されたと、標識に記されていました。

※最後に今回の金勝アルプスは、色々なルートがありよく整備され、シダの群生、砂岩、花崗岩、巨岩、奇岩とルートで違った雰囲気を楽しめ、ロープ伝いや沢登とお得感のある山行でした。

その反面、何時もより疲労感があり、帰りの車では眠気がありました。運転者の K さん、お疲れ様でした。

「日日是好日」本日は素晴らしい良い一日でした。